

研究雑誌 (39)

人間発達の物質的基礎 (三) A・R・ルリアの神経心理学の優位性

藤井力夫

アメリカでの川田貞治郎の苦悩。人間の発達と

ます。

障害について脳神経系のレベルから理解しようとしたこと。脳解剖実習の他に、描画能力の発達から理解しようとしたこと。これらについてお話し

A、物質的基礎について①脳の基本機能ユニット、②様式特異性の減少の法則、③定位反射の神経機序。

ました。障害児教育創始時におけるこうした態度、とても驚かされたことと思えます。その後の展開については、川田貞治郎『教育的治療学全集』全六巻、文化出版局(一九八九)をお読み下さい。

B、諸機能の発達について④知覚と行為、⑤ことばと叙述(パタディグマ関係)、⑥ことばと叙述(シンタグマ関係)、⑦リズムと同期。

このシリーズは、現代科学からして人間発達の必然性をどのように説明できるかについてお話しすることに重点があります。川田がどのように実践したか、彼の基本的な考え方については昭和十二年の論文から骨子を概略しました(表A)。

どこにすぐれた点があるのでしょうか。表Bにルリアの脳の損傷部位と損傷機能についての考え方を一覽した。脳の機能システムを階層的に把握しようとしたところに優位性があります。第二次世界大戦中における八〇〇例におよぶ戦傷脳損傷

大島での藤倉学園の実践を感じ取っていただければ幸いです。「動作心練」と「生活心練」、二つの側面から実践を展開しました。なによりも自分の意志で歩き、止まる。人間がもつこの機能の充実に注目しました。これが「心練学」の基本で、フランスの心理運動教育(レデュカシオン ドウ プシ コモトリス)と相通じるものがあります。脳神経系に発達する必然性がどのように内在しているのか。次回以降、一九六〇年代から七〇年代にかけてのA・R・ルリア(一九〇二〜一九七七年)における整理についてつぎのような順序でお話したいと思

B 高次皮質機能障害の分類 (A. R. LURIA, 1966)

- 1. 側頭葉病変に伴う障害
 - a) 聴覚失認
 - b) 感覚失語
 - c) 「聴覚-記憶失語」(側頭葉中位部病変)
- 2. 後頭葉および後頭・頭頂葉病変に伴う障害
 - A. 後頭葉
 - a) 視覚失認
 - b) 同時失認
 - B. 頭頂・後頭葉
 - a) 空間定位障害
 - b) 構成失行・失認
 - c) 論理的・文法操作の障害(意味失語)
 - d) 計算操作障害(失算症候群)
- 3. 感覚運動領病変に伴う障害
 - a) 運動感覚性失行(体感覚領)
 - b) 運動感覚性運動失語(体感覚領下部)
 - c) 運動性失行(前運動領)
 - d) 運動性運動失語(前運動領下部)
- 4. 前頭葉病変に伴う障害
 - a) 意志的運動・活動の障害
 - b) 言語の統辞論的側面の障害
 - c) 知的障害

A 精神薄弱児教育の実際

(川田貞治郎、『社会事業』21巻1号、昭和12年)

- ① 生活全体を利用して生活の基礎を教える。
- ② 自立は大事だが、技能の末梢に走ってはならない。
- ③ すべての基礎は歩く力にある。まっすぐ歩く動作心練。
- ④ 目と目をあわせ誘い出す。注意と模倣の動作心練。
- ⑤ 支えを手がかりに配線をつくる。教材を使った動作心練。
- ⑥ モデルがあれば応用できる。生活のなかでの自分の表現。
- ⑦ イデオサバンの教育に走ってはならない。調和ある発達。
- ⑧ 事実から学ばさせる。心地よい体験をいっぱいさせる。
- ⑨ 雑巾がけにも大事な教育がある。清潔と共同の生活心練。
- ⑩ 自然のなかで体験。実物による教育と労作による教育。
- ⑪ 引き出すのではなく、早期教育による諸能力の押し出し。
- ⑫ 子どもを萎縮させてはならない。親から託される施設。

患者のケース研究からの整理。ルリアは言う。「外見上まったく異なったようにみえる精神的な機能が内的には密接な関係がある。たとえば知覚に關係する空間關係の把握と、ことばの文法的な叙述とが同じ部位の損傷でおこる。一見違う機能でも脳の同じ部位が關係している。なぜこうしたことが起きるか、脳の諸過程が階層構造にあるからで、損傷機能を脳のレベルで説明することは機能回復に重要であるばかりでなく、高次神経活動の力動的な過程を理解することになるのである」(A・R・LURIA、一九七〇)。(北海道教育大学教授)